

種の概要

主として西太平洋熱帯域に分布するが、1983年に初めて国内で発見され、それ以後暖流の影響の強い西日本各地から次々に産地が発見されている。紀伊半島、豊後水道北部、九州西岸、奄美大島、沖縄島、西表島に分布。内湾奥部の干潟で細砂底から砂泥底に浅く潜り生息する。殻長20mm。殻は薄質、横長の楕円形で多少膨らみ、後端は裁断状。殻表は光沢のある薄い殻皮を被る。殻色は変異に富む。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
			○	○	○	○	○

県内分布

洲本市

県内における生息状況及びその他特記事項

新規追加種。2005年に淡路島中部の内湾に面した小礫混じりの粗砂泥干潟の潮間帯で生貝を10数個体確認した。その後、死貝はまれに見つかるが、生貝は確認できないことから、偶来分布とも考えられる。

保護上の留意点

潮通しの良い内湾において、小礫混じりの砂泥干潟の保全に努める。



写真提供：川渕千尋



写真提供：川渕千尋

【執筆者】 川渕千尋